

読書週間講演会



図書館を活用した絵本制作の舞台裏を公開！
区内在住絵本作家・川端誠さんによる講演会を開催

と き 11月13日（土）午後2時～4時

と ころ 生涯学習センター（練馬図書館併設）（豊玉北6-8-1）

13日（土）、区は、区内在住絵本作家・川端誠^{かわぼたまこと}さんによる講演会『絵本作家 川端誠 絵本とともに旅をして～図書館と絵本制作～』を開催した。

本企画は、日常的に区立練馬図書館を利用している川端さんが、今年6月に発行した絵本の制作で、図書館のレファレンスサービスを利用したことをきっかけに、館との交流が深まったことで実現したものの。

講演会では、鉛筆描きからはじまり、色を重ねて作品ができあがるまでの過程や、図書館の資料を使った素材集めなど、絵本作家の仕事ぶりを垣間見ることができた。

講演の参加者からは、「いつも来ている図書館を、絵本作家さんも利用していて、図書館の資料が作品につながっているとは驚きました。」「これまでとは違った視点で絵本を楽しめる気がします。大人でも絵本は楽しめますね。」との感想が聞かれた。

講演の最後に、川端さんは「図書館には人類の数に匹敵するほどの知が詰まっている。人間は、食事の次に「表現」に触れることが大事であり、その根本を守ってくれるのが図書館であると思う。皆さんも図書館に来て、いろいろな本を探してみてください。」と語っていた。



▲講演する川端さん



▲講演の様子

【講演会「絵本作家 川端誠 絵本とともに旅をして～図書館と絵本制作～」】

「お化けが空へ飛んでいくカットを描くのに、空の上から見た木の写真がみつからず、図書館に相談したら、20冊以上も本を探してくれました。」図書館のレファレンスサービスを利用しながら制作にあたる過程を、貴重な原画の画像を公開しながら講演された。講師の絵本作家・川端誠さんは、今年6月に発行された『お化けの猛暑日』や『地球をほる』などの絵本の制作にあたり、思うような写真がネットや書籍で見つからず、図書館の資料を探された。図書館司書がイメージに合うような資料を探し出し、それが絵本のワンシーンにつながっていく。

川端さんは、絵本は、読者と著者だけでなく、編集者はじめ製本者、印刷者、図書館、図書館にある資料となる書籍を書かれた方、流通の方、すべての人の経験、技術が繋がって読者の手に届くものと述べた。



▲川端さんの作品『お化けの猛暑日』（BL出版）

【講師プロフィール】

川端 誠 1952年生まれ、絵本作家。2003年より練馬区在住。
82年にデビュー作の「鳥の島」（BL出版）で第5回絵本につぼん賞を受賞。

【問い合わせ】 練馬図書館 電話03-3992-1580